「福井新々元気宣言」推進に関する施策

「福井県民の将来ビジョン」に基づき、「福井新々元気宣言」の「元気な産業」、「元気な社会」、「元気な県土」、「元気な県政」に掲げられた政策等を実現するため、県民の理解と参加を得ながら、責任を持って職務を遂行し、次に掲げる施策・事業について重点的に実施します。

平成２５年４月

福井県教育委員会教育長　　林　　雅　則

Ⅰ　２５年度の基本方針

福井型１８年教育を推進します。

「幼児教育支援プログラム」に基づき、保・幼・小の連携を強化するとともに、家庭教育の向上を支援し、幼児教育力を高めます。

小・中学生の全国トップレベルの学力を更に高めるとともに、芸術教育や国語教育を充実し、子どもたちの幅広い才能を育てます。

能力や個性に応じて、多様な教育の機会を広げる併設型中高一貫教育校の開設準備を進めるとともに、大学進学や就職など生徒一人ひとりの夢や希望が実現できる高校教育改革を進めます。

坂井地区の総合産業高校の開設など新しい産業ニーズに応える職業教育の充実を図ります。

ＡＬＴや本県独自の英語教材の一層の活用に加え、絵本や映像などを活用した英語に慣れ親しむ活動を充実し、小・中・高を通した使える英語教育の向上を進めます。

高い教育水準を支える教員の授業力を高めます。

幅広い教養を持ち、専門性の高い教科指導のできる教員が選考できる採用試験に改めます。

授業名人の年間を通じた模範授業をＤＶＤや授業力向上塾などを通して若手教員に伝えていきます。

公開授業や校内研修等を活発化させて、学校全体の授業力向上に努めます。

生徒の授業わかる度を測定できる評価制度を導入し、わかりやすい授業改善を進めます。

国体に向けた着実な競技力向上に努めます。

平成３０年の第７３回国民体育大会に向けて、中・高校の重点強化校などで若手選手を育成するとともに、オリンピック経験者などトップレベルの指導者や全国の強豪相手を本県に招いて実戦練習による競技力向上を進めます。

Ⅱ　２５年度の施策

１　日本のモデル「福井の教育」

◇　夢と希望を育てる学校

○幼児教育の充実【部局連携】　　5　未来を支える人づくり

・幼児教育支援センターによる訪問指導の充実や、保育士と幼稚園教諭が小学校の指導内容等を学ぶ研修会などを開催し、保育所と幼稚園における幼児教育の向上を支援します。

・県内５小学校区において、保育所・幼稚園の幼児に対する「アプローチカリキュラム」と小学１年生の「スタートカリキュラム」を共に実行し、幼児がスムーズに小学校生活に入れる仕組みを確立します。

・子育てやしつけ等を学べるワークシートを活用した講座を保育所などのほか、３歳児健診時でも開催し、幼児期の保護者等の家庭教育力の向上を支援します。

幼児教育アドバイスのための保育所・幼稚園巡回訪問回数	１００回
小学校の指導内容を学ぶ研修会に参加する保育士、幼稚園教諭の数	８００人
保護者等に対する家庭教育向上講座参加者数	６００人

○中高一貫教育の推進　　5　未来を支える人づくり

・高志高校に併設する附属中学校の平成２７年度の開校に向けて、６年間の一貫したカリキュラム編成や施設･設備等の検討を進め、夏以降に、順次、地域説明会を開催します。

・高校教員が中学校に出向いて教科指導に加わるなど、スムーズに高校教育が進められるよう、連携型中高一貫教育の充実を図ります。

・中・高の教員が相互に授業研究を行い、教え方の共通化や高校教育を先取りした指導の導入など中・高の接続を重視した授業改善を進めます。

○高校教育の充実

5　未来を支える人づくり

・全ての高校の生徒を対象として、授業のわかる度を測定できる評価制度を導入し、それぞれの高校の生徒の学習状況に応じたわかりやすい授業への改善を進めます。
・入学者の確保や進学等の実績において、更に伸ばせる力のある高校を「授業改善重点実施校」として指定し、学力向上センターを中心に教育環境の抜本的改善や学校全体としての授業力を高めるための集中的な支援を行います。
・それぞれの生徒が希望する大学等に入学できるように応援するため、教育課程編成や使用する教材等の再検討を行い、目標にあわせた効果的な授業の改善に努めます。

生徒から見た授業のわかる度指数（授業満足度） （平成２４年度　　６６％）	７０％

○職業教育の充実

・企業等への派遣研修による教員の授業力向上や生徒の校外実習の充実、難関資格取得指導の強化に加え、デュアルシステム導入の検討を行い、職業教育のレベルを高めます。
・これからの福井の農業を担う人材を育成するため、農業現場での実習を強化し、農業分野の資格取得や全国大会へのチャレンジなどを応援し、農業教育の向上を図ります。
・新しい時代の地域産業を担う人材を育てる総合化した産業教育を先導的に行えるよう、施設・設備の整備や円滑な学校運営体制の確立を図り、坂井総合産業高校（仮称）を平成２６年４月に開校します。

国家資格（日商簿記、販売士検定を含む）取得者数 （平成２４年度　　２,４９９人）	延べ２,６００人

○英語教育の向上

5　未来を支える人づくり

・小学４年生から絵本やビデオ等を活用して、英語に慣れ親しむ活動を始めます。
・中学校では、学習指導要領で求められる初歩的な英語を理解し、表現する能力に止まらず、高校英語を取り込んだワークシートを作成・活用するとともに、ＮＨＫ教材を活用した指導方法を県下全域に広げて、よりコミュニケーションを重視した中学英語のレベルアップを図ります。
・高校１年生で福井を題材としたオリジナル英語教材を活用した授業を行い、高校２年では１００人の生徒を海外に派遣して聞ける話せる英語力の強化を図ります。
・教員採用時のＴＯＥＩＣ受験などにより、教員全体の英語力を高めるほか、ＮＨＫ英語番組講師によるワークショップや米国大学への研修を行い、英語担当教員の指導力を向上します。
・更に高いレベルでの英語教育を目指して、質の高いＡＬＴの確保や活用方法の改善、外部検定試験の活用などを検討します。

○サイエンス教育の推進

5　未来を支える人づくり

・小学校での「夏休み理科実験応援プロジェクト」の実施や中学生を対象とした「夏休み科学実験チャレンジ教室」の開催により、理科好きの子どもたちを増やします。
・本県独自の「ふくい理数グランプリ」や「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」の内容を充実し、中・高校生のサイエンスに対する知的探究心を高め、全国科学オリンピックや「科学の甲子園」など、全国コンテストに参加する生徒数をさらに増やします。
・ＳＳＨ実施校の相互連携や小・中学生への指導協力を進め、理系に強い福井の教育を再生します。

全国科学オリンピック等の参加者数	２００人
（平成２４年度　　１９６人）	
課題研究発表会の参加者数	１７０人
（平成２４年度　　１６１人）	

○「白川文字学」を活用した漢字教育や古典学習の充実

・本県から漢字教育･漢字文化を全国へ発信するため、「白川静漢字教育賞」を創設し、独自の漢字教育を実践し普及している人等を表彰します。

・本県独自の漢字教育指導者認定制度を設け、白川文字学の漢字指導者を増やし、県内全ての小学校で「白川文字学」を活用した公開授業を実施します。また、中学校や高校にも白川文字学を取り入れた授業や課外活動を広げていき、漢字教育のレベルアップを図ります。

・小学校の学習に百人一首を取り入れ、早くから古典に親しみ、関心の高まる教育を進めます。

県内小学校での「白川文字学」を活用した公開授業	２００回
県内各地での漢字教育に関する研修会	１７回

○芸術教育の推進【部局連携】

5　未来を支える人づくり

・経験の少ない弦楽器を小学生から体験させるなど、小・中・高を通じた音楽教育の充実や、今年、福井で開催される「ミケランジェロ展」や「岡倉天心展」など、本物の美術作品に触れる機会を増やし、全国トップレベルの学力･体力に加え、芸術面での才能も伸ばします。

◇　次をめざす教育の充実

○教員の資質向上

・教員の募集方法を小学校や中・高の各教科別に改め、専門性の高い指導力や幅広い教養を持つ、教員となるにふさわしい人材の確保に努めます。

・教員採用後は、授業や生徒指導などの能力を高める初任者研修の充実とあわせて、若手教員を対象に、東京事務所や他県の高い教育効果をあげている学校、産業や福祉などの行政分野への派遣を行い、教育立県福井にふさわしい教員の資質を高めます。

・都市に負けない、地方としての人材育成力を大きく飛躍させるため、公立学校の新しい時代の学校経営を考え、レベルの高い教員集団をリードできる校長、教頭などを任用する仕組みを検討します。

○教員の授業力の向上

5　未来を支える人づくり

・授業名人を増やし、模範となる授業を年間を通してＤＶＤにまとめて、「若手教員授業力向上塾」などを開催しながら、若手教員の授業力の向上を進めます。

・校長、教頭などによる授業改善指導を強化するとともに、公開授業・授業研究会等の校内研修を活発化させて、学校ごとの授業改善体制を充実します。

・優れた授業の進め方などを実践している教員の知恵と工夫を結集する「教育情報フォーラム」のシステムを、教員が使いやすく、授業改善に活用しやすい仕組みに改め、実用性を高めます。

・学校を訪問して授業改善などを指導徹底する指導主事自らが、教員を指導する能力を高め、県内の学校全体の授業力が向上する仕組みを確立します。

若手教員授業力向上塾の開催数　　１校当たり１０回

学習指導プランの登録数

小学校　２,４００件、中学校　１,２００件、高校　６００件

（平成２４年度　小学校　１,８７４件、中学校　１,００９件、高校　３９５件）

○高校教育改革の推進

・これまでの高校再編、文理探究学科等の教育成果の検証に加え、今後の高校入学定員の考え方や分校、定通制のあり方、高校入試の改善などの検討に着手し、次の時代につながる高校教育のレベルアップを進めます。

◇　日本の教育センター福井

○教育関係者が福井に学びにくる仕組みづくり

・他県から派遣された教員向けに、「福井の教育を学ぶための年間研修プログラム」を作成し、全国からの教員の派遣受入れ体制を整備します。また、他県からの教育視察者に本県の優れた教育内容を紹介するＤＶＤをバージョンアップするほか、教育視察メニューの開発を進めます。

・福井の授業名人や教育指導者が他県からの招へいを受けて、本県の教育内容を紹介する仕組みを整え、全国で展開するとともに、大学研究者等と共同で、福井の学力・体力が全国トップクラスであることを学術的観点から解明した本を平成２６年度に出版するための準備を行います。

県外からの学校視察受入人数	１，４００名
（平成２４年度　　１，３８１名）	

○青少年体験活動の充実

5　未来を支える人づくり

・福井の自然環境やふるさと伝統文化などを体験できる各青少年体験活動施設のモデルプログラムを県内外の学校に発信し、野外活動や宿泊体験などの拠点づくりを進めます。

・また、あわら温泉を利用する教育旅行の増加に結び付けるなど、新しい体験プログラムを取り入れた、芦原青年の家の移転整備のための準備を進めます。

○里地里山をフィールドに環境教育を充実【部局連携】

・「里地里山クラブ」を設置する小学校２０校を指定し、子どもたちの活動を支援するとともに、ＩＰＳＩ４（ＳＡＴＯＹＡＭＡ国際会合）の開催に合わせ、「福井こども環境教育フォーラム」を開催し、福井の子どもの里地里山での活動を世界に発信します。

○いじめも不登校も体罰もない学習環境の推進

・全ての学校において、「いじめ対策委員会」の設置、「いじめ対策サポート班」の速やかな対応を進め、いじめ等問題行動の早期解消を図ります。
・全ての小・中学校の教頭が参加する不登校対策研修会を定期的に開催し、中学校で増加する不登校の迅速な初期対応に努めます。
・校長や教頭が、教員だけでなく生徒等から定期的に聴き取りなどを行うことにより、体罰のない部活動、生徒指導を徹底します。

（不登校者数　小学校８０名、中学校４００名
（平成２４年度　小学校８０名、中学校４０２名））

○特別支援教育の推進【部局連携】

・発達障害等が認められる児童・生徒に、小学校入学後早い時期から支援を進めるため、就学前に保護者などへの理解普及を図るとともに、小・中・高の移行期の円滑な連携体制を整えます。また、高校での発達障害等のある生徒の就労に向けた支援を充実します。
・発達障害など特別な支援を必要とする生徒に対して、専門的な教員や施設・設備が整った教育環境の中で、障害の内容に応じた教育が行えるよう、特別支援学校の高等部の受入体制の充実を検討します。

２　新しい方向をひらく農林水産業

◇　食卓に「福井の食」（地産地消、地産外商）

○毎日おいしい地場産給食の実現【部局連携】

・栄養学、調理学の専門家、レストランの調理師等を学校や給食センターに派遣し、食材の調査・給食の試食など客観的な評価を行い、おいしい給食の提供を支援します。

・本県の農産物を活用した学校給食レシピを「ふるさと知事ネットワーク」の各県に紹介します。また、１１月の「ふくい味の週間」などを中心に、地場産食材を使用した給食を保護者や地域の方にも味わってもらいます。

３　国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化

◇　飛躍する福井のスポーツ

○スポーツ競技力の向上　　5　未来を支える人づくり

・平成３０年の福井国体に向けて、今年、東京で開催される国体での１０位台を確保するとともに、中学校・高校、クラブチームなどに対し、オリンピック経験者などのトップレベルの指導者から直接指導を受ける機会を充実し、練習の質を高めて競技力の向上をさらに加速させます。

・本県ゆかりのトップアスリートが県内を拠点に、競技選手や指導者として活躍できるよう、教員の特別選考制度や県内企業、団体等での受入体制の充実を図ります。

（国体総合成績　　１０位台
　（平成２４年度　　２４位））

○１県民１スポーツの推進

・体力日本一の子どもたちの学校体育・運動部活動の充実をはじめ、誰もがいつでもスポーツに参加できる環境をつくることなどを内容とする、「福井県スポーツ推進計画」を、福井国体の正式内定時期にあわせて作成し、本格的にスタートさせます。

・運動する機会の減る冬季でも行なえるバウンドテニスや３Ｂ体操などのインドアスポーツを県民に広め、年間を通じて、子どもから高齢者・障害者まであらゆる人が参加できるスポーツ体験の機会を提供します。

○県有体育施設等の整備

・国体に向けた競技力向上と県民のスポーツ参加を促すため、福井国体のメイン会場となる福井運動公園をはじめ、クレー射撃場、久々子湖漕艇場などの県有体育施設の整備を進めます。また、選手強化に必要な競技用具や老朽化により危険が伴う備品の整備を進めます。

◇　生活に福井の文化

○国宝・重要文化財、県文化財の指定の拡充・推進【部局連携】

・無形民俗文化財の国指定に向けた「祭り・行事」の実地調査を行います。また、本県に伝わる越前焼や漆器、和紙などの伝統的工芸・民俗技術の文化財指定に向けた準備に着手します。

・県内で発掘された埋蔵文化財を通して、福井の歴史等を子どもたちに知ってもらうため､夏休みに体験学習会を開催します｡また、広く県民を対象として、遺跡の発掘体験などを組み込んだ考古学入門講座を開催します。

国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 （平成１５年～２２年度の平均　７件／年）	８件

○「福井ふるさと文学館（仮称）」整備の推進　　5　未来を支える人づくり

・福井ゆかりの作家の直筆原稿や初版本、初出誌などの貴重資料の収集に努めるとともに、ふるさと文学に触れ、親しめる展示施設の整備を進め、「福井ふるさと文学館（仮称）」の平成２６年度開設準備を行います。

○こども歴史文化館の参加・体験機能の強化

・登録博物館として、全国から貴重資料や子どもたちが理解しやすい実物資料の収集を進め、企画展示等で紹介するほか、展示に合わせ百人一首などの体験教室を実施し、子どもたちが参加体験しながら福井の歴史や文化が理解できるよう工夫します。

こども歴史文化館の来館者数	３７，０００人
（平成２４年度　３６，３６４人）	チャレンジ目標　３８，０００人

４　すぐれた医療と支えあいの福祉

◇　「こころとからだの健康」づくり

○子どもの目と歯の健康づくりの推進【部局連携】

・近視予防のため、全ての小・中学校で、野外での活動や休み時間に遠くを眺める活動を充実するほか､学校と家庭が一緒になって、近視予防につながる規則正しい生活の定着を図ります。

・むし歯予防のため、全ての小学校で低学年対象の歯みがき教室を実施し、正しい歯みがき習慣の定着を図ります。

むし歯のない小学生の割合	３５％
（平成２４年度　３３．８％）	

５　若者のチャレンジと女性の活躍を応援

◇　子どもがたくさん、家族を応援

○「放課後子どもクラブ」への支援

・未就学児の保護者も含めた独自の利用ニーズ調査を実施し、これに基づき市町を指導して、小学６年生までの希望する児童を受け入れることのできる「放課後子どもクラブ」を整備するよう市町を支援します。

６　日本一の安全・安心（治安向上から治安実感へ）

◇　治安実感プログラム

○通学路交通安全の推進

・学校、道路管理者、警察と協力して、通学路の安全を確認する合同点検を実施し、見守り活動の強化、ガードレールや横断歩道の整備などの安全対策を進めます。

・子どもたちが、道路の安全な横断方法や自転車の正しい乗り方を習得し、交通安全に関する正しい知識を深めるための交通安全教室を開催します。

◇　地震・異常気象・災害などに迅速対応

○防災教育の推進

・本県独自に作成した「学校防災マニュアル」を活用して、学校の防災体制の見直しを進めます。また、児童・生徒に災害に対する備えや対処行動等を学習させ、自らの命を自ら守る能力を身につけるための防災教育の授業を行います。

・気象台職員や土木の専門家からなる「学校防災アドバイザー」を学校へ派遣し、防災体制の整備、防災教育の推進を支援します。

○子どもを守る耐震化の促進

・児童生徒の学習の場、地域住民の応急避難場所となる小・中学校施設や県立学校施設の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。

耐震化率	小・中学校施設（平成２５年度末）	８８％
	（平成２４年度末　　８４．７％）	
	県立学校施設（平成２５年度末）	９３％
	（平成２４年度末　　９０．７％）	